

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：小さな足あと保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：原 弘毅	定員（利用人数）：75（77）名
所在地：〒232-0017 横浜市南区宿町4丁目75-1	
TEL：045-341-3430	ホームページ： https://www.ashiato-hoikuen.com/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2012年05月01日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 美希福祉会	
職員数	常勤職員：16名 非常勤職員：15名
専門職員	（専門職の名称）：名 保育士：28名 看護師：1名
施設・設備 の概要	（居室数） （設備等）
	居室：0歳児室 設備：調理室
	居室：1歳児室 設備：調乳室
	居室：2歳児室 設備：医務室兼事務室
	居室：3歳児室 設備：地域子育て支援スペース
	居室：4歳児室 設備：乳幼児用トイレ
	居室：5歳児室 設備：保育士休憩室

③理念・基本方針

<理念>

- 私たちは子どもたちの未来像を描きながら保育に取り組んでいます。
 - 保護者や地域の方々とのコミュニケーションを大切にし、地域社会に貢献できる保育園を目指しています。
- 1.自分を大切にし、人の気持ちを大切に出来る子ども
 - 2.心身ともにたくましく、みんなと元気に遊べる子ども
 - 3.思っていることをはっきり言える子ども
 - 4.自分のもっている力を出し、最後までやり遂げる子ども

<基本方針>

子どもたちはみなが豊かに伸びてゆく可能性をその内に秘めています。その子どもたちが現在を最もよく生き、望ましい未来を創り出す力の基礎を培うことを保育の基本方針とします。そのために、職員は子どもや家庭などへの分け隔てのない、人権を尊重した保育を実践します。さらに、より質の高い保育を実践するために、保護者から意見や要望などあった場合は真摯に耳を傾け、分かり易く説明することによって、子どもを中心とした家庭と園の連携や相互理解を深めるよう努めます。

＜保育目標＞

1. 基本的な人格形成をする大切なこの時期に、一人ひとりの人格や個性が尊重され豊かな人間性を形成することを目標とする。
2. 子どもの最善の利益を考え、子どもの権利が尊重される保育を目指す。
3. 園での様々な経験を通して、素直にのびのびと成長するよう援助する。

④施設・事業所の特徴的な取組

＜小さな足あと保育園の特徴的な取組＞

- 認可保育園を運営する社会福祉法人として50年の実績に裏付けされた保育
- 3都県6園での交流研修により、保育の多様化に対応できる取り組み
- 子どもの個々の成長に合わせた保育を行う目的としての縦割り保育
- 大舞台で行事を実施し、達成感や自己肯定感を達成することで自立の下地を作る
- 建物の内外装、保育備品、職員の服装にも気を使い、家庭的な環境を作る

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2024年06月19日（契約日） ～ 2024年10月03日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2019年度）

⑥総評

【小さな足あと保育園の概要】

●小さな足あと保育園（以下、当園という。）は、横浜市営地下鉄線蒔田駅から徒歩3分、鎌倉街道に近い住宅地の中に位置しています。この辺りは南区の中心地域で、近くに南区役所、南区公会堂等がある官庁所在地であると共に、交通拠点の上大岡駅前と神奈川県官庁街関内・桜木町駅の間地点にあり、アクセスも良く、マンション等が次々と建設された発展地域です。住民の構成は、この地に根付く地主や古くからの住民、そして関内・桜木町などに勤務する人々の住まい、さらにマンションに新規入居等の若い層等、大きく階層が分かれ、増加した若い住民層に保育ニーズの高い地域です。

●園舎の外観は、ヨーロッパ風の温かい色合いの外壁と、窓や玄関はおとぎの国のような雰囲気醸す、鉄筋コンクリート作りの4階建てです。1階には子育て支援スペースを中心とした円形のフロアが設けられ、事務室と内外から見える調理室があり、園庭も有しています。2階と3階は各々2つの大きな保育室があり、異年齢保育を中心とした保育を展開しています。4階は屋上部分で、省エネを考慮した園庭となっており、夏にはプールを設置し、温水シャワーも完備しています。

●保育は乳児（0～2歳児）と幼児（3～5歳児）の縦割り保育を基調とし、異年齢合同の保育を通じて上の子が下の子を思い遣り、下の子が上の子を頼り、兄弟のような関係を大切にしつつ、さらに発達に合わせた年齢別の保育も実施しています。

◇特長や今後期待される点

1. 【子ども個々の成長に合わせた保育】

当園では、子どもの個々の成長に合わせた保育を行う目的とした、縦割り保育をしています。当園では、3歳以上児の各クラス14名を7人の2つに分けて、縦割りクラス21名の2クラスを設定して活動しています。基本的に、日中は縦割りのクラスで過ごしていますが、年齢別保育の活動を適切に設定した上で実施し、年齢別のクラスの垣根を超えて異年齢で関わりながら活動する保育を積極的に取り入れています。縦割り保育では、

子どもたちが兄弟姉妹のように助け合いながら成長し、職員と共に大家族のような雰囲気の中で愛情を一杯受けて育ちます。縦割り保育により、年上の子どもは年下に対して何かを教えようとし、危険から守ろうとする等、責任感が芽生え、お手伝いの行為を大人に褒めてもらう等、子どもの自信や自己肯定感につながっています。また、年上の子どもの存在は年下の子どもに憧れの感情を呼び起こし、新たなチャレンジを始め、理想を抱く等、互いを認め合える関係を構築し、大切な感情が豊かに育まれています。

2. 【自己肯定感や達成感が得られる自立への下地作り】

当園では、子どもたちが主体的に活動できる環境設定として行事の企画とその実施に力を入れており、例年、4月の入園・進級を祝う会から3月のおわかれ会まで、保育課程の経過に応じた行事が行われています。それらの行事の中で、6月初めの運動会と11月から12月に行われるお遊戯会は注目の行事になっています。今年の運動会は6月1日（土）に南区スポーツセンターで既に実施済みであり、親子共々期待通りの好評を得ています。これから行われるお遊戯会については、昨年、南区公会堂で行い300名の保護者が参観され、お遊戯、曲太鼓、ハンドベルを子どもたちが披露しました。お遊戯会当日まで子どもたちは保育で演技する内容の修得訓練に励みます。保護者の感想には、「身体を動かすことが苦手で、毎年お遊戯会の活動には消極的でしたが、本人も回を重ねるごとに前向きになって取組み、苦手なことも頑張り、取り組む気持ちを学べたことがこの5年間の一番大きな成果だったと思います。小学校に上がってもきっと本人の助けになる力を与えてくださりありがとうございました。」等、我が子の成長を実感し、保護者からは感動と感謝の言葉が溢れるお遊戯会になっています。

3. 【心の育ちを重視した「心のふるさと」を目指す保育園】

運営主体の美希福祉会の保育コンセプトは、心の育ちを重視した「心のふるさと」を目指す保育です。園舎の外観の潇洒な造りと、園内のインテリアは本物を心がけ、フロアの照明は雰囲気合ったシャンデリアを採用し各所に観葉植物を飾り、掲示についても好まれるデザインにて分かりやすく掲示しています。日常保育では、様々な物に対しても本物に触れることを心がけ、子どもの感性を豊かに育てています。カリキュラムでは、外人の英語教師によるネイティブの英語、専門講師による体操教室、日本舞踊、和太鼓等を取り入れて本物志向を養っています。給食では、調理の様子が大きな窓ガラスで良く見えるようになっており、実際に調理される工程や良い匂いが伝わるよう工夫がなされ、食材は地元野菜を選択し、食器は扱いに割れることもある陶器の食器を使用する等、意識・感性を高める工夫が随所にあり、正に「心の育ち」が育まれています。

4. 【ICT導入により保育事務を簡単、便利に効率化する】

当園では、経営上の課題や保育の質向上に向けた課題・取組として、保育士の経験不足増え続ける事務作業の負担、事務処理の増加、事務作業の簡略化、マニュアル化を挙げています。しかし当園は、保育のコンセプトとして「心のふるさと保育園」を目指した園運営を掲げて、手作り・温もりの保育が行われており、子どもたちや保護者に好評及び支持されています。手書きの連絡帳等の伝達ツールは心に優しく余裕と安心を与えてくれます。一方、園では、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、ICTアプリ登降園管理システムを導入し、玄関開閉方式をICカードによる開閉方式に改善を図っています。ICカード入出データにより、延長保育集計が行われ、横浜市の給付請求システムに連携して保育料金の給付が行われています。現在導入されているICTアプリ「SERVE」は、段階的に機能を拡張して保育園の業務を総合的に支援するシステムになっています。書類作成の多い保育士業務を簡単・便利に効率化できます。日誌・計画・出力帳票等の様式は園の様式に合わせることが出来ます。一斉メール配信、Web掲示板、欠席連絡等、

保護者との様々なやり取りをまとめて管理することも出来ます。また、スマホ操作可能で2段階認証セキュリティになっています。園舎を含め当園は、和洋折衷良いところを取り入れて見事に心のふるさと園としての保育を演出されており、保育園業務においても、ICT導入を視野に入れた労使Win-Winの関係になることを期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名 小さな足あと保育園

《第三者評価を受審した感想・自己評価での取組の感想》

横浜市等の関係機関と連携して、法令を順守し、保育環境の向上を目指しながら運営しています。第三者評価は、行政指導とは違い、利用者目線での評価であり、保育所が求められているものを見つめ直す機会となりました。

自己評価では、経験年数の違う職員でチームを組むことで、組織の中での個々の役割や、多くの気づきが発見できました。

保護者アンケートでは、様々な意見をいただき、園の自己評価と利用者評価の違いも明確になりました。求められている保育やサービスを知ることができたことで、今後の改善の意欲につながっています。

保育方針、保育状況を理解していただく努力をしても、それが保護者へ十分に伝わっていないと知り、保育環境の向上だけでなく、共有方法も今後の課題であると認識しました。

《評価後取組んだこととして》

1. メール連絡網や園内掲示板による情報共有を増やした。
2. 職員の情報共有の機会を毎日作り、改善点の早期解決、申し送り内容の精査を行った。
3. 利用者からの意見を真摯に受け止め、改善に努めるように職員に共有した。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり